

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人 石川県音楽文化振興事業団	
施 設 名	石川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,889	(千円)
公演事業	13,504	(千円)
人材養成事業	6,847	(千円)
普及啓発事業	7,538	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
地域の音楽文化振興の中心的役割を担う施設として、音楽堂の存在意義、また条例・計画を踏まえ、「石川の文化創造・発信拠点として地域活性化に貢献する」という社会的役割（ミッション）を掲げ、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業それぞれに目標（ビジョン）を設定し、その達成に向けて着実に取組を推進できた。しかし、事業内容をより精査し進捗していく中で、一部規模縮小や、出演者との調整が整わなかった公演事業、普及啓発事業の一部に関して、変更が生じた。併せて、次の課題を認識し、こうした課題の解決に向けて、今後とも不断の見直しに取り組んでいく。	
①財源：行政からの助成状況が事業の執行に大きく影響 ⇒公演収入の増や寄付・協賛金の調達による自主財源の拡充	
②人材：少子高齢化の進展に伴い人材確保はあらゆる業種・業界と競合 ⇒将来を見据えた担い手の長期・安定的な確保	
③ネットワーク：地域の音楽文化の裾野の拡大と底上げ ⇒県内外の他文化施設や教育現場との連携の強化	
④広報：定期会員数の減少（顧客の高年齢化）傾向 ⇒新たな客層（特に若者）への働きかけ	
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
当館は、環境分析（※）に基づいた目標（ビジョン）設定をし、事業を実施した。地域における当館の環境を再確認することで、より文化的、社会的、経済的意義を踏まえた目標となり、目標達成に向けて事業を推進することができた。	
（※）環境分析 内部環境（施設の強み・特色） →強みを活かし、弱みを克服する 外部環境（地域の特性・ニーズ等） →機会を攻略し、脅威を回避する	
①【強み→活用】 ・オーケストラ・アンサンブル金沢を有する。 ・特色ある3ホールを有する。 ・国内外の著名なアーティスト、地域で活躍する音楽家や団体とのネットワークを築いている。 ・金沢駅に隣接しており、利便性が高く、賑わいがある。	
②【弱み→克服】 ・楽団員・施設職員の平均年齢が上昇している。 ・学校教育との連携が不十分である。	
③【機会→攻略】 ・藩政期以来培われてきた伝統芸能が盛んな地域性がある。・県民のクラシック音楽に対する受容が高い。	
④【脅威→回避】 ・若者等のクラシック離れ（顧客の高年齢化）が進んでいる。 ・少子高齢化、転出超過により、市場規模が縮小している。	
●上記4種（①②③④）の要因を組合せ、事業を企画・実施した。	
◎①強みを活かし、③機会を攻略	→ 公演事業
・国際的水準のクラシック音楽の提供 ・質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実 ・異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造	
◎①強みを活かし、④脅威を回避	→ 普及啓発事業
・全ての人々の鑑賞・文化活動を行う機会の充実 ・子どもが文化に触れる機会の充実	
◎②弱みを克服し、③機会を攻略	→ 人材養成事業
・将来の文化の担い手の育成	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標の達成に向け、公演・人材養成・普及事業それぞれ指標を設定し、事業を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大防止による影響を受け、目標値には届かない指標もあったが、前年・前々年と比較すると、総じて上昇傾向、あるいは維持できており、引き続き、目標の達成に向けて、取組の維持・拡大に努めたい。

～目標・目標設定の考え方・指標～

【公演事業】

洋楽・邦楽ともに高い受容がある地域の特性を踏まえ、地域の財産である多機能なホールやレジデント・オーケストラ（OEK）といった資源を活用することで、

- ①当事業団の特徴的な事業である洋楽と邦楽の融合に持続的に取り組む
- ②顧客満足度の一層の向上を図り、定期会員数の減少に歯止めをかけることを目標として設定した。

(指標)

- ①異分野融合公演数（目標値：3公演）

→講談+室内オペラ（8/11）、洋邦コラボ（11/13）、芸の鼓動（2/29）

※芸の鼓動公演は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

- ②公演ごとに実施している入場者アンケート（目標値 95%）

→H28：91.9%、H29：92.7%、H30：93.1%、H31：93.6%

【人材養成事業】

地域の文化レベルの維持と底上げに向け、その担い手となる若年層の確保を図ることを目標として設定した。

(指標)

育成団体の団員数（目標値：130人）

→H28：119名、H29：120名、H30：111人、H31：106人

※H31年度の新人団員は13名だったが、引退や受験による退団人数が入団数を上回り、5名の減少となった。

【普及啓発】

顧客ニーズを見定め、新規来館者の増加を図ることを目標として設定した。

(指標)

公演ごとに実施している入場者アンケート（目標値 95%）

→H28：91.9%、H29：92.2%、H30：94.6%、H31：94.2%

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間について、年間を通し、事業ジャンルや適時性を考慮した当初計画に対し、概ね適切で計画通りに進んだ。一方で、「気軽に楽しめるシリーズ公演の回数を増やしてほしい」「子どもが楽しめる公演を増やしてほしい」といった声もあり、他公演の事業期間や事業費を精査しながら実施を検討したい。

事業費においては、事業内容をより精査し進捗していく中で、一部規模縮小や、出演者との調整が整わなかった公演事業、普及啓発事業の一部に関して、事業費の乖離が生じた。その点に関し、計画段階での更なる情報の収集と検証、精査に努める必要がある。

また、2月末から3月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記事業を中止とし、乖離が大きく生じた。

公演事業3：③「芸の鼓動」 公演中止

人材養成事業1：①「石川県ジュニアオーケストラ」 活動休止と2公演の中止

②「いしかわ子ども邦楽アンサンブル」 活動休止と2公演の中止

③「カレッジコンサート」 公演中止

普及啓発事業1：③「ランチタイムコンサート」 全5回中1公演中止

2：①-2「音楽堂キッズコンサート」 1日2回公演中止

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館における地域の文化拠点としての機能（資源）は下記のとおりであり、当館事業はこうした特性を最大限に活用する事業を実施できた。また、事業内容において、

- ・レジデント・オーケストラを核とする公演
- ・伝統芸能文化を核とする地域の特徴を活かした公演
- ・洋楽と邦楽の融合に取り組む公演
- ・新作初演公演

などにも取り組むことで、内容の充実・工夫に努めている。

【当館における機能（資源）】

①キーパーソン

- ・芸術監督（マルク・ミンコフスキ）に加え、洋楽監督（池辺晋一郎）・邦楽監督（駒井邦夫）の存在により、当館が提供する芸術活動に、方向性と系統性・持続性を持たせ、芸術内容を深化させることができた。
- ・舞台技術責任者の存在は、舞台を熟知する専門家として、計画的な機材の点検、補修、更新を実施し、会館の機能向上に資するといえる。

②専属団体

- ・専属団体であるオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）を有することで、オーケストラを活用した事業を柔軟に企画展開することができる。さらに、関連する団体（合唱団、ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブル等）を通し、地域と有機的なネットワークを形成し、会館の支援団体としての機能を持たせることができる。

③建物設備等

- ・当館はコンサートホール、邦楽ホール、交流ホールと3種のホールを併せ持ち、それぞれのホールの特性に合わせた事業を展開した。
- ・コンサートホールの形状は、伝統的に響きが良いとされるシューボックス型を採用。優れた音響特性と臨場感を生み出している。

ホール正面にはドイツ製（カールシュッケ社）のパイプオルガンを備えており、コンサートのみならず学会等のオープニングなど多様な場面で使用している。

- ・邦楽ホールは歌舞伎や文楽の公演ができる邦楽専用ホール。また、演奏用に壁、天井の移動式音響反射板も備えているため、室内楽やオーケストラ公演も可能。
- ・交流ホールは段床（観客席250席）迫りや舞台迫り、迫りフェンス、大型映像装置等を備え、演奏会、講演会、パーティー、展示会、舞踊競技等、様々な催しに対応できる多目的スペース。3ホールの中で稼働率は最も高く、県民の文化交流の場となっている。
- ・コンサートホールと邦楽ホールは、背中合わせに配置されており、公演の内容により楽屋やホールを機能的に使用できる。
- ・当館敷地が金沢駅兼六園口（東口）に面していることから、駅東広場とつながる1階と地階には多目的な利用が可能な交流ホールを設けているほか、コンサートホール側の2階（来場者ロビー）には、金沢駅と一体となった景観が望めるカフェスペースを設置するなど、県民の交流や観光客の憩いの場として、賑わいの創出を図っている。また、音楽堂の周辺にはホテルなどの宿泊施設も多く、利便性の高い立地条件となっており、海外や県外からの利用者も多い施設となっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

『本物の音楽に直接触れたい』『OEKを聴きに行きたい』『オルガンのあるホールなので、たくさん企画してほしい』といった地域のニーズに対し、当館は下記目標を設定し、地域の文化拠点としての機能・資源（前述）を活用・投入した事業を推進することで応えている。

【トップレベルの文化芸術の振興】

①国際的水準のクラシック音楽の提供

○レジデント・オーケストラであるOEKの公演だけでなく、国内外のトップアーティストによるコンサートも実施

○音楽堂の財産であるパイプオルガンの魅力をより一層アピール

②質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実

○邦楽専用のホールを活用し、邦楽監督・プロデューサーの監修のもと、最高級の伝統芸能を鑑賞する機会を幅広く提供

○「芸のまち・いしかわ」として、地元の出演者も積極的に活用

③異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造

○県の音楽文化振興の中心的役割を担う音楽堂として、引き続き、洋楽文化と邦楽文化の融合による新たな文化の創造を推進

○県内外の観客・出演者が新たな文化と出会う場を創出し、県の文化の裾野拡大を図るとともに誘客の増加を推し進めるもの

【地域文化の振興】

①全ての人々の鑑賞・文化活動を行う機会の充実

○クラシックファンでなくても楽しめるバラエティ豊かなコンサートを鑑賞する機会を提供

○気軽に音楽堂に足を運び、観客として、出演者として、多様な音楽文化に触れられる機会を提供

②子どもが文化に触れる機会の充実

○0歳児からクラシックや伝統芸能に触れられる機会を提供し、子供の豊かな感性の育成に寄与

○部活に入る前の小学生などが合奏の機会を通して、技術向上や人格形成、将来の演奏家や音楽ファンの創出につなげるもの

③将来の文化の担い手の育成

○洋楽、邦楽の振興を将来的に担う若者（小～大学生）等の育成を図るための事業を展開

○インターンシップの受け入れや他館との合同研修の実施等を通して、アートマネジメント人材の育成やスタッフの資質向上を推進

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当館組織の構築、強化、維持について、当館中期経営目標（実施期間 平成 30 年度～令和 4 年度）を

①入場者数を 5 年間で 8%増加させる。

②利用者（貸館）アンケートによる満足度は引き続き 95%以上を維持する。

と設定し、目標達成に向けた適切な運営を行うため、設置者と人事・経営戦略やネットワーク、事業内容など組織活動に関する情報、さらには下記の現状と課題の共有を図りつつ、持続的に改善・発展に努めている。

【人事】

専属団体構成員の転換期（退職期）を迎え、新規の演奏家の獲得を随時実施している。

運営事務局構成員も同時に世代交代を進め、経験を積んだプロパー職員への運営移譲を進めている。引き続き、地域住民の理解と支援を得られる施設としての在り方を追求していく。

【劇場・音楽堂等間のネットワーク】

地域や国内の劇場・音楽堂との共同制作事業、共同公演事業を実施。また、全公文の総会や東海北陸支部、県公文協の研修会などに参加するほか、劇音協等との情報交換を定期的に行っている。

【教育機関とのネットワーク】

大学との提携の一環として、例えば、昭和音大からのインターンシップ受け入れを実施している。

これまで OEK による幼稚園、保育園、小中学校、特別支援学校での公演を実施してきた。更に、3 年計画として、市内全中学校を廻る公演の実施を予定している。

【ボランティア】

地域の音楽愛好家によるボランティア団体が当館の事業運営を幅広くサポート。

春の音楽祭では大勢の学生や地域住民をボランティアとして積極的に活用している。

ひいては当館のサポーター（顧客）となることも見据えて受け入れを推進。

【財政支援者】

財政支援者である定期会員、賛助会員数は共に減少傾向にあり、会員数の増加に向けて更なる事業内容の充実や施設の利用促進に努める。

【施設運営】

貸館利用促進のため、ホームページ、フェイスブック、ツイッターの活用、マスコミへの協力など積極的な情報発信を行っているが、更なる充実を図る必要がある。

また、維持管理について、安全・安心を第一に、来館者が快適に過ごせる環境を整えると共に経費の節減・効率化に努めている。